

リゾートホテル

大部分がソ連時代に建設された湖畔の施設にあって、極めて少数ながら、近年民間資本によって建設されたホテルも登場しつつある。バリクチとチョルボン・アタ間のチョクタール村にある「ロイヤルビーチホテル」は2002年6月に開業、プライベート・ビーチをはじめ、児童公園やディスコを備え、地中海・西欧型リゾートホテルを志向している。



写真5 - 7 ロイヤルビーチホテル

チョルボン・アタ岩絵野外博物館

湖岸からチョルボン・アタ空港の方へ登った斜面上に、紀元前7世紀～紀元前1世紀の遊牧民サカ族(スキタイ系)の岩絵が転がっている。以前は山の上にあったものが氷河によって流されてきたもので、その数は1,000を超える。山羊、馬、ラクダ、犬などの動物や、鹿狩りをする人間等が描かれている。

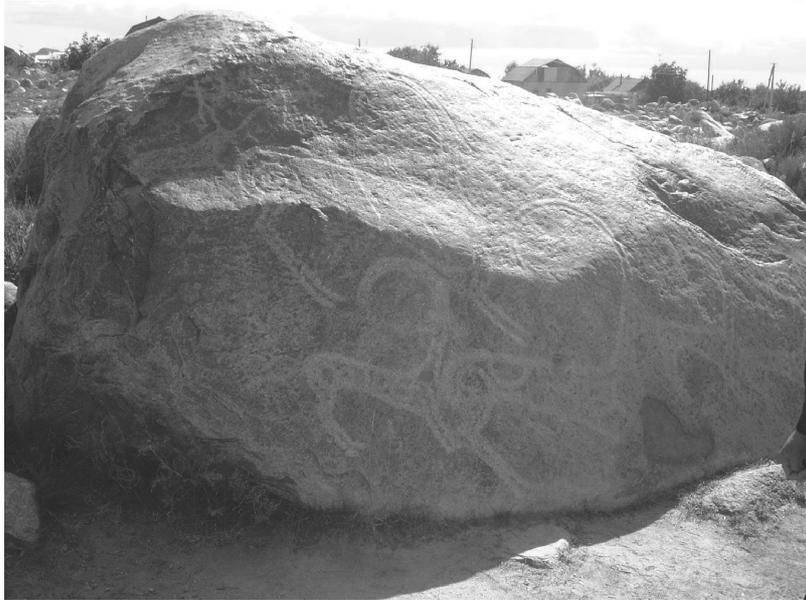


写真5 - 8 チョルボン・アタ岩絵

ジェティ・オギユズ

イシククリ湖東岸の州都カラコルの北西約15km、海拔2,500mの温泉保養地。山奥の大自然の中にあり、天然のラドン温泉が湧き出る。温泉保養所のサービスは州内の同様施設と変わらないが、建物の一部は外国人旅行者用に近年改装された。街の入口に、レンガ色の巨大な岸壁が異様な存在感を示してそびえ立っており、この形が7頭の牛に似ていることからそれを意味するキルギス語が街の名前となった。



写真5 - 9 ジェティ・オギユズ

3) シルクロード歴史旧跡巡り

バラサグン遺跡とブラナタワー

ビシュケクからイシククリ湖へ向かう道を東へ60km、トクマクより南へ約10km下った地点に、10～13世紀のカラ・ハーン王朝の首都の1つであったバラサグンの遺跡がある。カラ・ハーン王朝はこの地域のトルコ系民族(キルギス)が最初にイスラムに改修した王朝として知られている。遺跡の中心であるブラナタワーは11世紀初頭に建造されたが、15世紀の地震で倒壊して1974年に修復された。現在の高さは24mだが、倒壊前は45mあった。

ブラナタワーに隣接する野外博物館にはキルギス全土から集められたバルバルと呼ばれる石人像が並べられている。これらは5～6世紀にこの地を支配していた突厥の將軍たちの墓石だといわれている。

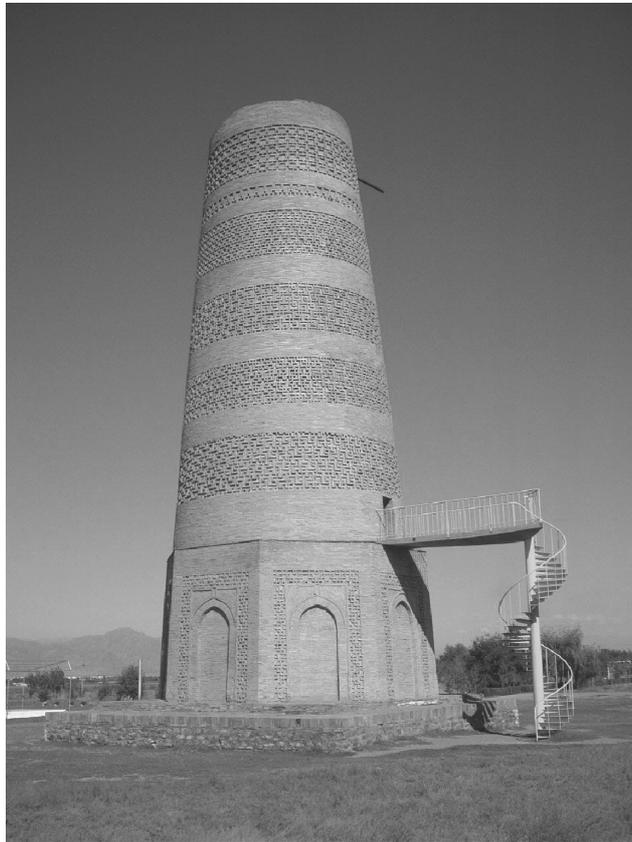


写真5 - 10 ブラナタワー



写真5 - 11 石人碑 バルバル

アク・ベシム遺跡

トクマクから南西へ6km(プラナタワーより北西へ6km)の草原の中に位置する唐代の破葉城跡。『大唐西域記』によれば、629年にインドに向けて唐の長安を出発した玄奘三蔵は、遠回りのルートであるにもかかわらずこの地を訪れ、この地域を幕営地としていた西突厥王の統葉護可汗(ヤブグ・ハーン)に謁見し、旅の庇護を求めたとされている。

1930年代後半にソ連の考古学者により最初の発掘が行われたが、その後作業は進展せず、1980年によようやく調査が再開された。地元キルギスの人々が遺跡としての価値を認めているとは思われず、保護されている様子はいかがえないが、歴史的価値を認識させてしかるべき発掘を行い、観光地としてのアレンジをすれば、十分に観光客を惹き付けることができると思われる。